フレーベル會俳句集

一、課題　當季雜吟一人十句以下
一、締切　毎月二十五日限り
一、披露　翌々月本誌上
一、賞品　三光には繪葉書を呈す
一、撰者　當分本會の撰とす
一、投稿　本誌讀者は何人にても投吟する事を得
用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村
フレーベル會俳句掛
鹽野奇零宛

○本誌第一號募集俳句は極めて少數なるため、次號に掲ぐべし

無聊吟社句集

圓山や茶店の旗に春の風　煙村
春寒の鏡の雲や化粧部屋　芋村
春風や雲助唄ふ箱根山　素月
畑打や小石の多き山の裾　坦々
城跡や陽炎もゆる石の上　秋山
一里ほどくれて戻るや春の月　松風
草も木も眠る姿や春の月　文久
小座敷に灯火くらき柳かな　天外
初午や母の背中に豆太鼓　醉月
切凧の山を越したる行方かな　桂川
白梅や若き女の朝詣　可笑
小娘のうた面白し春の宵　きよ女
籠提げて戻る女や春の川　ちよ子
青柳に澁茶もうまし峠茶屋　榮居
春風や風船放つ女の子　奇零
梅散るや修學院に朝の雨　同
小さき子の雛抱いて行く隣りかな　同
雛古き長者の家や五十代　同
梅多き小村に暮れて月明り　同

時雨日記

在米國　おさん

一千九百六年一月廿一日